



公開日:平成28年7月1日

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の感染の確認について

県内において初めて重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の感染が確認されました。

1 感染症の名称 重症熱性血小板減少症候群

2 届出年月日 平成28年6月30日(木曜日)

3 患者 男性・70歳代

4 患者住所 高島市

5 経過 6月18日 高熱(40°C)、関節痛、下痢

6月20日 医療機関受診、血小板減少

6月24日 医療機関入院、肝機能・腎機能低下、血小板減少

6月25日 京都市内の医療機関へ転院

6月30日 SFTSウイルス検査陽性となり、医療機関から京都市に届出

6 防疫措置 (1)本人・家族に対する疫学調査を実施

(2)本人・家族に対する保健指導を実施

7 県民の皆様へ

- SFTSはSFTSウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染します。
- 草むらや藪など、マダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくするようにしましょう。
- 吸血中のマダニに気が付いたときは、医療機関(皮膚科)を受診しましょう。
- マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関を受診しましょう。

《参考》全国の発生状況(平成28年6月26日現在届出数)

届出府県数※20、届出患者数194人

※石川県、三重県、京都府、兵庫県、和歌山県、島根県、岡山県、広島県、

山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、

熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県

【重症熱性血小板減少症候群(SFTS)とは】

・重症熱性血小板減少症候群(severe fever with thrombocytopenia syndrome:SFTS)とは、SFTS ウイルスに感染することによって引き起こされる病気です。主な症状は発熱と消化器症状で、重症化することもあります。

・SFTSは、ウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染するため、患者はマダニの活動期である春から秋にかけて発生しています。

【重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の予防のために】

・マダニに咬まれないようにしましょう。

・草むらや藪など、マダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくしましょう。

・野外活動後はマダニに刺されていないか確認しましょう。

【マダニに咬まれた時は】

・吸血中のマダニに気が付いた際、無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまったりする恐れがあるので、医療機関(皮膚科)で処置(マダニの除去、洗浄など)をしてもらいましょう。

・マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けましょう。

お問い合わせ

滋賀県健康医療福祉部薬務感染症対策課

電話番号:077-528-3632

ファックス番号:077-528-4863

メールアドレス:eh00@pref.shiga.lg.jp